

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2025年6月

販促・魅力発信

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、6月6日～10日の5日間、**首都圏で新鮮な水産品を販売する「sakana bacca（サカナバッカ）」10店舗と連携して「発見！ふくしまフェア」を開催し、首都圏に向けて常磐ものの魅力をPRした。**
- フェア期間中、**常磐ものの鮮魚や、「ふくしま常磐もの二種丼」、「常磐もののヒラメ二色丼」などの丼ものをはじめとした加工品を合計約2,700点販売した。**

「発見！ふくしまフェア」 sakana bacca

- 日程：6月6日（金）～10日（火）
- 場所：sakana bacca（サカナバッカ）10店舗



理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Messenger

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ! 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 6月2日（月）、国際原子力機関（IAEA）は、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングについて、昨年10月に日本の分析機関、IAEA関係者及びIAEAに選定された韓国、スイス、中国の第三国分析機関の専門家によって、**東京電力福島第一原子力発電所近傍において採水された海水試料の分析結果に関する報告書を公表**しました。
- 今般公表された報告書において、参加する各分析機関から提出された**結果は、ALPS処理水の海洋放出が人や環境に対して与える影響は無視できるほどであるとする2023年（令和5年）7月のIAEA包括報告書の結論と整合している旨記されています。**
- 日本政府は、今後ともIAEAと連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めます。

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

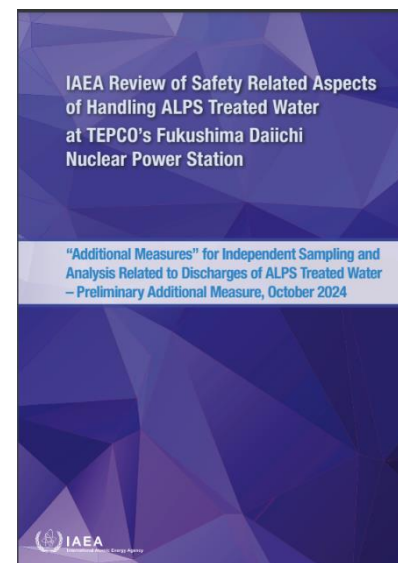
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02247.html

【原子力規制庁】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表

https://www.nra.go.jp/news_only/20250606_IAEA-report_jp.html

【環境省】 国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での ALPS処理水の海洋放出に係る追加的モニタリングの分析結果に関する報告書の公表について

https://www.env.go.jp/press/press_05049.html



ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの分析結果に関する報告書原文は、以下のIAEAウェブサイト参照

【IAEA】

IAEA Review of Safety Related Aspects of Handling ALPS Treated Water at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

<https://www.iaea.org/sites/default/files/additional-measures-for-independent-sampling-and-analysis-related-to-discharges-of-alps-treated-water-preliminary-additional-measure-october-2024.pdf>

- 6月10日（火）、**石破茂内閣総理大臣は**、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のナショナル・デー行事に参加するため訪日中の、**セサル・ベルナルド・アレバロ・デ・レオン・グアテマラ共和国大統領と日・グアテマラ首脳会談**を行いました。
- また、会談後、**両首脳は日・グアテマラ共同声明に署名**し、両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げすることで一致しました。

【首相官邸】 日・グアテマラ首脳会談

<https://www.kantei.go.jp/jp/103/actions/202506/10guatemala.html>

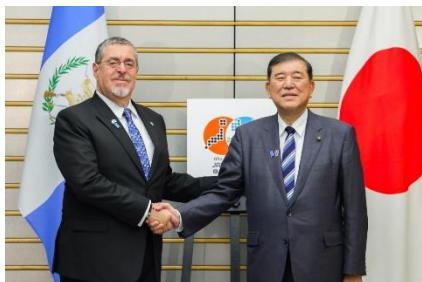
【外務省】 日・グアテマラ首脳会談及びワーキング・ディナー

https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/m_ca_c/gt/pageit_000001_02014.html

日本国とグアテマラ共和国との間の戦略的パートナーシップに関する共同声明

15 Ambos líderes coincidieron en subrayar los beneficios del proceso japonés, seguro, transparente y basado en evidencia científica, para gestionar de manera responsable la descarga de agua tratada mediante el Sistema Avanzado de Procesamiento de Líquidos (ALPS, por sus siglas en inglés), en colaboración activa con científicos, socios y el Organismo Internacional de Energía Atómica (OIEA). El Presidente ARÉVALO DE LEÓN reconoció el liderazgo del Primer Ministro ISHIBA en este importante tema.

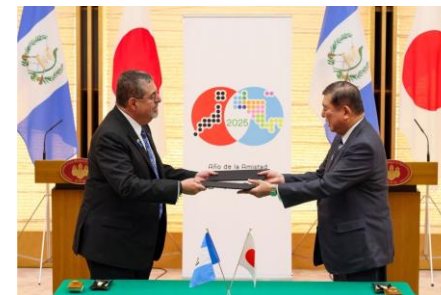
15 両首脳は、科学者、パートナー、国際原子力機関（IAEA）と積極的に協調しながら、多核種除去設備（ALPS）処理水の放出を責任ある形で管理するための、安全で、透明性が高く、科学的根拠に基づいた日本のプロセスの意義を強調することで一致した。アレバロ大統領は、この重要な議題に関し、石破総理のリーダーシップを評価した。



（写真提供：内閣広報室）



（写真提供：内閣広報室）



（写真提供：内閣広報室）

IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として 海水希釈前のALPS処理水の採取が行われました

販促・
魅力発信

理解醸成

安全確保

8

- 6月17日（火）、**IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、試料の採取**が行われました。
- **今回の追加的モニタリング**は、2024年9月に我が国とIAEAとの間で、IAEAの枠組みの下での追加的モニタリングを実施することで一致したことを受けて、**2024年10月、2025年2月、4月に続き、4回目として実施**されたものです。
- 今回の追加的モニタリングでは、東京電力福島第一原子力発電所構内において、**IAEA関係者及び韓国、スイス、中国、ベルギー、ロシアの分析機関の専門家が、測定・確認用タンクから海水希釈前のALPS処理水を採取**しました。
追加的モニタリングの一環として海水希釈前のALPS処理水を採水するのは、2025年2月に続き2回目です。
- 経済産業省は、今後ともIAEAと連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めていきます。

【経済産業省】 国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、東京電力福島第一原子力発電所構内において、海水希釈前のALPS 処理水の採取が行われました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/06/20250617002/20250617002.html>

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施(結果)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02287.html



（写真：経済産業省HP）



（写真：経済産業省HP）



（写真：経済産業省HP）

- 日時：2025年6月17日（火）10:00～10:24
- 場所：農林水産省3階第一特別会議室
- 出席者：小泉農林水産大臣（本部長）、鈴木復興副大臣、富樫総務副大臣、藤井外務副大臣、**古賀経済産業副大臣**、高橋国土交通副大臣、土田財務大臣政務官、吉田厚生労働大臣政務官、森農林水産省輸出・国際局長

農林水産大臣（本部長）挨拶

政府としては、**外務省や経済産業省との連携の下、A L P S 処理水放出に伴い停止されていた中国向け水産物の輸出再開に向けて協議を進めてきたところ、今般大きな進展**がありました。今後、必要な手続きについて、農林水産省と厚生労働省などの関係省庁が連携して取り組んでいく必要があります。さらに、**残された規制の撤廃に向け、引き続き連携して取り組むとともに、復興庁とも連携して、被災地の輸出拡大に取り組んでいくことが重要**です。

経済産業副大臣 発言

先ほど外務副大臣からも言及された通り、今回、**日本産水産物の中国への輸出再開に必要な技術的要件について、日中双方で合意**に至ったと承知しております。**輸入再開に向けた着実な進展と、残る輸入規制の撤廃に向けて、経済産業省としても、A L P S 処理水の海洋放出の安全確保や情報発信等に引き続き取り組んでまいります。**

農林水産大臣（本部長）発言

食品分野は輸出先の輸入規制の撤廃・緩和が重要であり、輸出本部の下、実行計画に基づき、政府一体となって着実に進めてきました。特に、A L P S 処理水放出に伴い停止されていた**中国向け水産物の輸出再開**については、先月28日に、**必要な技術的要件について日中双方で合意**に至ったところです。この動きを**早期の輸出再開につなげるため、中国側から求められている輸出施設の登録に向けた手続きを加速化してください。**

【農林水産省】第6回農林水産物・食品輸出本部会合（令和7年6月17日）
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hq/i-2/index-3.html>

- 6月23日（月曜日）、**松尾剛彦経済産業審議官と中国の鄢東（えん・とう）商務部副部長は、次官級定期協議を北京で開催**しました。本協議は1990年に創設され、今回で22回目となります。
- 本次官級定期協議では、日中二国間の経済協力について意見交換を行い、「第2回日中サービス貿易政策対話」、「第2回日中ビジネス環境円滑化ワーキンググループ」を年内に東京で開催することを歓迎しました。
- 日本側からは、**日本産水産物の輸出再開に必要な技術的要件に合意したことに言及しつつ、残る輸入規制の早期撤廃を申し入**れました。
- 今後も様々な機会を活用して、緊密に意思疎通を重ねていくことで一致しました。



（写真：経済産業省HP）

【経済産業省】 第22回経済産業省と中国商務部との次官級定期協議を開催しました

<https://www.meti.go.jp/press/2025/06/20250625004/20250625004.html>

- 6月30日、東京において、中村仁威外務省軍縮不拡散・科学部長及びジャン＝ルイ・ファルコニ仏原子力・代替エネルギー庁国際関係部長の共同議長の下、**原子力エネルギーに関する日仏委員会第13回会合が開催**されました。
- 今回の会合では、両国の原子力エネルギー政策、マルチでの取組、両国及び第三国における原子力発電所の新規建設、原子力の研究開発、フュージョン・エネルギーの研究開発、高速炉を含む革新炉、核燃料サイクルのバックエンド、放射性廃棄物の管理及び最終処分、原子力安全及び放射線防護、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉や福島環境再生に向けた取組といった幅広い分野について、有意義な意見交換**が行われました。
- 今次会合での意見交換を踏まえ、今後、日仏間の原子力協力の更なる強化が期待されます。

（参考）原子力エネルギーに関する日仏委員会

平成23年10月の日仏首脳会談の際に発表された原子力及びエネルギー政策に関する日仏首脳共同宣言の中で、原子力エネルギーに関する全ての分野における二国間協力を強化するために、両国の関係する当事者によって構成される委員会を設立することが決定された。第1回会合は平成24年2月に東京で開催され、前回の第12回会合は令和6年4月にパリで開催された。



（写真：外務省HP）

【外務省】原子力エネルギーに関する日仏委員会第13回会合の開催（結果）（令和7年6月30日）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02345.html

- 2025年5月20日～24日、**大阪・関西万博**において、経済産業省による福島復興展示を実施。
- 期間中、**福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水の処分等に関する展示**を実施。
- 5月24日には**廃炉に関する特別トークセッション**も開催。廃炉の現場で活躍する作業員やベンチャー企業、廃炉創造ロボコンに参加した高専生などが登壇し、福島第一原子力発電所の廃炉について、それぞれの視点から語っていただいた。

廃炉に関する展示



＜主な展示内容＞
事故直後と現在の様子
構内作業環境改善の様子
廃炉作業員の声
廃炉で活躍するロボット
燃料デブリの試験的取り出し
ALPS処理水の海洋放出、
安全性

期間中は、ハンガリーの
シュヨク大統領等が視察



＜登壇者(五十音順)＞

【第1部 廃炉の「今」】

田川 明広氏(日本原子力研究開発機構 福島廃炉安全工学 研究所 櫛葉遠隔技術開発センター長)、竜田 一人氏(漫画「いちえふ」作者)、星川 尚久氏(大熊ダイヤモンドデバイス株式会社 代表取締役)、横川 泰永氏(東京電力ホールディングス株式会社)、渡部 敬綱氏(東京パワーテクノロジー株式会社)

【第2部 廃炉の「これから」】

福島高専 廃炉創造ロボコン出場チーム(佐々木 有奈氏、山野辺 歩真氏、塚田 愛由希氏、佐久間 広太氏)、伊藤 悠貴氏(東芝エネルギーシステムズ株式会社 原子力機械システム設計部 スペシャリスト)、竹中 瑠奈氏(東京電力ホールディングス株式会社)、関弘圭氏(株式会社Liberaware(リベラウェア)代表取締役)

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

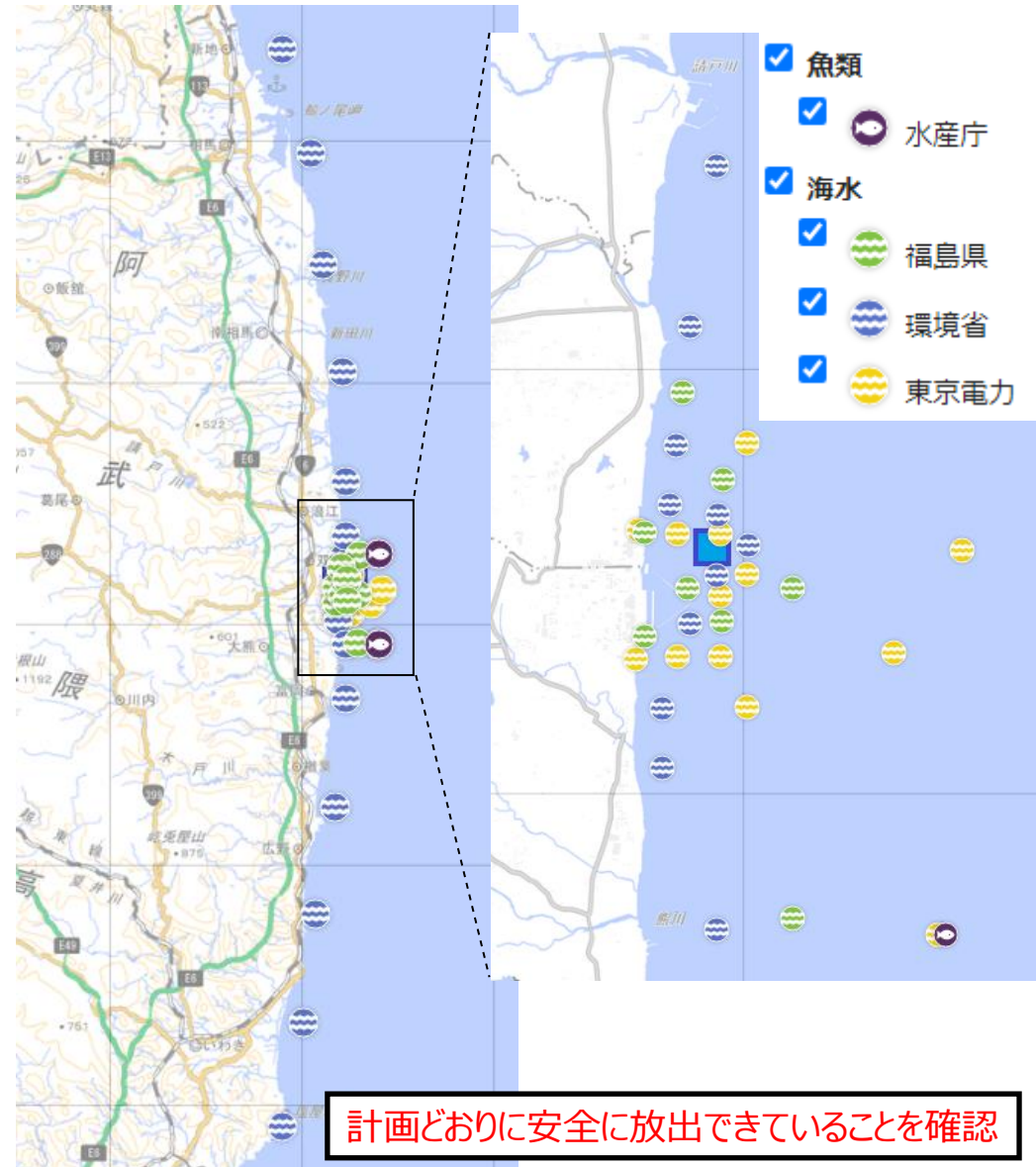
○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸20地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年6月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：2号機の燃料取扱設備据え付け作業の完了について）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2025年6月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内（津湾内を除く）

20km圏内

	エリア	海水の測定結果（単位：ベクレル/ℓ） （2025年5月1日～5月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム	3km圏内	15
	20km圏内	検出せず（＜8.2） [迅速測定※1]
セシウム134※2	3km圏内	検出せず（＜0.98）
	20km圏内	検出せず（＜0.0014）
セシウム137※2	3km圏内	検出せず（＜0.86）
	20km圏内	0.036

【注】右側の数値は検出下限値、検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
※1：トリチウムの検出下限値はリットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
※2：福島県沿岸海域における過去の測定結果は、セシウム134：0.00051ベクレル/ℓ、セシウム137：0.00028ベクレル/ℓ（福島県庁発表）に相当（日本原子力発電株式会社発表） 掲載：2018/4～2022/3

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や汚染物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/monitoring/>

包括的・海域モニタリング観測システム（CORS）

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県）が測定および汚染物の放射性物質濃度も有意な変動は確認されていず、詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるCORSをご覧ください
<https://www.monitor.orb.jp/>

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.47

2025年5月、2号機使用済燃料プールからの燃料取り出しに使用する「燃料取扱設備」の据え付け作業が完了しました。

▶2024年6月7日、福島第一原子力発電所2号機の使用済燃料プールから燃料取り出しをするために、原子炉建屋南側に燃料取り出し用橋台※1の設置工事が完了しました。

▶2025年5月30日、使用済燃料プールから燃料取り出しをするために使用する「燃料取扱設備」を燃料取り出し用橋台に搬入し、ランウェイガーダ※2上のレールに据え付ける作業が完了しました。

▶今後、安全かつ慎重に作業を進め、2号機使用済燃料プールにある燃料（615体）の取り出し作業を2026年度までに開始する計画です。

※1：燃料取り出し作業専用の橋台（鉄骨組み立て） ※2：原子炉建屋と橋台をまたぐ形で敷設された移動用レールの基礎

燃料取扱設備

燃料取り出し用橋台

燃料取扱設備をランウェイガーダへ搬入し、養生を外した様子（2025年5月30日撮影）

クレーン

燃料取扱設備

燃料取扱設備をランウェイガーダへ搬入し、養生を外した様子（2025年5月30日撮影）

走行台車

ランウェイガーダ

①燃料取り出し用橋台（以下、橋台）内でクレーンを用いて燃料搬送容器（以下、容器）を燃料取扱設備に搬入。搬入後、原子炉建屋内へ移動。
②使用済燃料プール内へ搬入後、燃料取扱設備で燃料を容器へ格納後、クレーンで容器を燃料取扱設備へ搬入。
③原子炉建屋から搬入し、容器を搬出。

Q.燃料取扱設備とは？

▶使用済燃料プールから燃料を取り出して、燃料搬送容器へ格納する「燃料取扱設備」と燃料搬送容器の搬入を行う「クレーン」を走行台車に乗せた移動式の設備（重量約230t）です。なお、操作は遠隔で行います。

【参考】燃料取り出しイメージ

燃料取り出し用橋台

移動

原子炉建屋

燃料取扱設備

燃料搬送容器

燃料

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.